

# 高梁の 近代化遺産 ⑬

## 高梁基督教会堂

京都の洋風建築は同志社大学から始まりました。明治17年から23年にかけて建てられた5棟は国の重要文化財。明治19年に完成した礼拝堂は、わが国最古のプロテスタント教会で、入口や窓に尖頭アーチを使ったヴィクトリアン・ゴシック様式。超党派の宣教団体・アメリカン・ボードから派遣されたD・C・グリーンが設計しました。

高梁基督教会堂が建てられたのは明治22年。岡山県内に現存する教会では最古です。設



鐘楼は、旧札幌農学校演武場の時計台を手本にしたといわれ、岡山県重要文化財の指定を記念して明治28年に取り付けられました。

計は今治の棟梁・吉田伊平。吉田は明治23年には倉敷の天城教会堂を手がけ、ふたつの擬洋風建築にはいくつかの共通点が見られます。

まず、基壇を花崗岩、外壁を下見板張りとしたこと。次に、縦長の上げ下げ窓の上に三角形のファンライトを置いたこと。これをゴシック窓と呼ぶ建築家もあります。三つ目は、玄関ポーチと礼拝堂の天井を菱組としたこと。菱組の天井とアーチは文久3（1863）年に完成した長崎のグラバー邸の特長で、明治5年に竣工した群馬県の富岡製糸場にも採用されました。お雇い外国人は、高温多湿な日本の夏を快適に過ごすため、ペランダを巡らせ日陰をつくりました。

このペランダ・コロニアル様式に、見た目に涼しい菱組を用いたのです。四つ目は、礼拝堂の天井を高く、竿縁天井とし、内壁を漆喰塗りとしたことです。竿縁天井は、明治42年に完成した吹屋小学校本館の講堂にも使われています。五つ目は、瓦に十字架をデザインした点です。

同志社大学礼拝堂は煉瓦造ですが、高梁と天城の教会堂は木造。わが国の煉瓦は、安政4（1857）年にオランダ人技師ハルデスが、長崎熔鉄所を建設する時に焼かせたものが最初だとされています。煉瓦は明治期を代表する建築材料ですが、高梁の近代化に煉瓦という単語はありません。何故でしょう。

良質の木材と花崗岩に恵まれたこと。優れた棟梁がいたこと。寺社の多い町です。明治



同志社大学は、高梁のキリスト教布教に大きな影響を与えた新島襄が創設しました。礼拝堂の建設には三上吉平衛をはじめとする日本人棟梁らが携わりました。礼拝堂の簡素は、数ある同志社大学の煉瓦建築物の中でも特筆すべきものです。

維新までに培った日本建築の秀でた技があったことは容易に想像できます。木と石の文化が赤い煉瓦を受け入れなかったとも考えられます。日本銀行が煉瓦を露出させたのは明治39年の京都支店から。わが国近代建築家の雄・辰野金吾でさえ、本店、大阪・小樽支店の外壁は石貼りとし、京都支店で初めて煉瓦の赤を表現したのです。

高梁基督教会堂は、明治37年に開校した旧高梁尋常高等小学校の本館、現在の高梁市郷土資料館と共に高梁を代表する近代化遺産です。その歴史的背景には、教育、医学と並び、当時の建築事情が見え隠れします。

（文・吉備国際大学社会学部ビジネスコミュニケーション学学科准教授・小西伸彦さん）

編集と発行(毎月15日発行)高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

本紙は環境保全のため再生紙を使用しています。

